

4

伝送制約

伝送線について

1. M-NET

- ①M-NET集中系、ユニット系ともに**2心シールド付きケーブル**(線径 1.25mm^2)をお使いください。(CVVS・CPEVS)
- ②室内ユニット～リモコン間は10mまで**2心シース付きビニールコード**又は**ケーブル**(線径 $0.5\sim 0.75\text{mm}^2$)をお使いください。
(VCTF・VCTFK・CVV・CVS・VVR・VVF・VCT)
10mを越える分に関しては①と同じシールド線をお使いください。
- ③シールドは必ず1点でアースをするようにしてください。
- ・ユニット系→各室外ユニットのアース端子E
(各室内ユニットの渡り配線(伝送線)のシールド部も各々接続してください)
 - ・集中系→システム系の給電ユニットにおいてのみ
(各室外ユニットの渡り配線(伝送線)のシールド部も各々接続してください。
但し、給電ユニットがない場合は、1台の室外ユニットに接続してください。)

2. SH制御

- ①シース付きビニールコードまたはケーブル(線径 1.25mm^2)を使用してください。
(VCTF・VCTFK・CVV・CVS・VVR・VVF・VCT)
- ②室内ユニット～リモコン間は10mまではリモコンに付属のケーブルを使用してください。
10mを越える分に関してはシース付きビニールコードまたはケーブル(線径 $0.3\sim 1.25\text{mm}^2$)を使用してください。
(VCTF・VCTFK・CVV・CVS・VVR・VVF・VCT)

3. K制御

- ①シース付きビニールコードまたはケーブル(線径 1.6mm)を使用してください。
(VCTF・VCTFK・CVV・CVS・VVR・VVF・VCT)
- ②室内ユニット～リモコン間は10mまでは線径 $0.5\sim 0.75\text{mm}^2$
10mを越える分に関しては①と同じケーブルを使用してください。

伝送線の給電について

1. M-NET

- ・室内ユニット系の給電は室外ユニットが、集中系への給電は伝送線用給電ユニットが行ないます。

システム構成内容により集中系への給電箇所、給電方法などについてまとめます。

システム構成	給電箇所	給電方法
システムコントローラ無 (異冷媒系統の室内ユニットをグループ運転)	1台の室外ユニット	・1台のみ短絡コネクタCN40を装着します。 ・他の室外ユニットは工場出荷時(CN41)のままです。
システムコントローラ有 (2台以下)※	給電ユニット PAC-SC33KU	・室外ユニットは工場出荷時のまま(CN41) ・給電ユニットは常時給電状態のため、複数の給電ユニットを並列には使用できません。
システムコントローラ有 (3台以上5台以下)※	給電ユニット PAC-SC34KU	・課金システム(YF-64)接続時は課金用M伝送コンバータのCN40を抜いてください。

※：グループリモコン・システムリモコンは、2台でシステムコントローラ1台分に相当しますが、GR1台のみの時はPAC-SC33KUをご使用ください。
汎用インタフェース(DDC)、計量用計測コントローラ(MC)もSCの内数となります。

2. K制御(K伝送コンバータを使う場合)

- ・室内ユニットへの給電は室外ユニットが、室外ユニット(ストアシリーズ)への給電はK伝送コンバータが行ないます。
- ・集中管理リモコン(又はYKシリーズ)を併用する場合は、データメモリのCN3を抜いてください。
- ・集中管理用電源ユニット(YPU-12V)、集中管理用電源トランス(YPU-101)は必要ありません。(接続しないでください。)

注 意

M-NET、K制御ともに、1箇所から給電するようにしてください。
2箇所以上から給電を行なった場合、基板を破損し、正常運転ができません。